

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ゼミナールIII Seminar III		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(公務員試験)	本年度中に(地方)公務員試験を受験する予定があること。
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会基礎教養、法学、日本国憲法、ゼミナールI、ゼミナールII				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
ゼミナールIV				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
川副令	講義棟2階	初回授業で発表する		授業中に指示します
授業の概要				
地方公務員を志望する学生の学習支援を目的とする。筆記試験の出題範囲全体を対象に、ゼミナール形式で過去問演習を行う。行政職2次試験科目のうち、いわゆる適性試験の練習を行う。受講生は公務員試験受験に向けて、各々弱点克服に取り組むことができるようになる。				
授業の目標				
(1) 受講者全員が既に筆記試験の出題範囲について一通り自分で勉強していること、また各々自分で勉強計画を立て、それに従って学習を進めていることを前提に、総合的な過去問演習を行う。各自弱点分野を確認し、効率的に勉強に取り組むことができるようになる。(2) 行政職2次試験科目のうち、早めの対応が必要と思われる適性試験の練習問題に取り組む。適性試験の特徴を把握し、自分自身で計画を立てて勉強することができるようになる。				
授業の方法				
演習の時間を、前半と後半に分ける。前半は毎回事前に予習範囲を指定して、学生全員が同じ問題に取り組んだ上で参加する。また、各参加者に担当問題を割り振って、解答解説の発表を求める。後半はその場で問題を指定し、一定時間内に回答できるか、本番を想定した練習を行う。				
学習の成果(学習成果)				
地方公務員試験筆記試験の出題範囲について一通りの勉強を終え、弱点分野を明確にし、効率的に勉強することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	スケジュール調整、文章理解1			
第2回目	数的推理1			
第3回目	判断推理1			
第4回目	適性試験対策1			
第5回目	文章理解2			
第6回目	数的推理2			

第7回目	判断推理2
第8回目	適性試験対策2
第9回目	社会科学1
第10回目	人文科学1
第11回目	自然科学1
第12回目	文章理解3
第13回目	数的処理3
第14回目	社会科学3
第15回目	適性試験対策3

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	出席状況のほか、毎回の問題への取り組み、質疑応答への参加等を総合的に評価する。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	50%	担当問題について、正解をしっかりと理解しているか、解説の準備が十分にできているか、他の参加者に伝わるよう適切な仕方で解説ができているか、を評価する。
その他		

教科書と参考図書

『地方初級教養試験：過去問350（2017年度）』実務教育出版を教材とする。他の教材、参考図書等は授業で紹介する。

履修上の留意点・ルール

毎回教材を持参すること。このゼミナールはあくまで学生自身による勉強を支援するものです。各自目的意識を持ち、主体的に学習に取り組んでください。